

ご挨拶

同窓会東京支部総会懇親会

平成23年11月11日

久留米大学

附設中学校・附設高等学校

校長

吉川 敦

本日は支部総会おめでとうございます。

幹事回生の皆さまのご尽力で、このように立派な会が催されることになり、まことに慶賀に耐えません。

28回生の皆さまをはじめ、すべての同窓生の皆さまのますますのご活躍とご発展を念じております。

さて、本校の近況については、ホームページでご覧いただいているかと思ひます。新しい校舎が皆さまのご援助もあって半分ほど出来上がったところでございます。まだ、残りの半分の工事が控えておりますが、いよいよ平成25年の春、新学期には、全く新しい校舎での授業ということになります。

ところで、わたくしは校長の任期の二期目に入りました。平成25年度一杯でこの期は終わりますので、新校舎での学校の運営の中心は、次期の校長ということになります。

そこで、まだ二年ほどあるとは言え、次の校長を探し始めなければなりません。附設の未来は、その方の initiative に拠るべきとは言え、次期校長探しには皆さまのお力をお借りしなければならない面もあろうかと思われ、そういう意味で、附設の課題について少しお話をさせてください。

本来は、福岡での総会で糸口を切るべきことを、久留米や福岡から遠く離れた東京の地から始めるというのは、実は、卑怯だと言われてしまうかも知れないところもあるのですが……。

さて、**附設の課題**には、**短期的**なものと**中期的**なものがあります。
底流にあるのは共通で、

- 1) 少子化の進行
- 2) 地方の疲弊化
- 3) 福岡地区での競争条件激化

に対し、**附設が将来とも魅力ある学校として先頭を走るための条件**を確認し、実行するということです。

短期的には、**平成25年以降の体制の確立**です。具体的には、

- 1) 新校舎供用開始に連携する40人学級化の円滑な推進
- 2) 平成17年度開始の共学化の趣旨の貫徹

の二点であり、対策として、

- 3) 平成25年度からの中学共学化開始などの手立てを実行に移して参ります。

中期的な課題としては、

完全中高一貫化、つまり、高校募集停止

を、恐らく、附設75周年(平成37年)くらいには、そのような最初の卒業生が出るくらいの進行で、実現を図るべきではないか、ということがあります。理由はいろいろありますが省略させていただきます。

この点に関しては、中学共学化を開始することにより、高校共学化のときの謳い文句「**男女共同参画社会への貢献**」という趣旨は貫徹されましたので、高校募集停止に対する社会的批判は心配の必要はなくなったと思います。

さりながら、平成37年度で最初の卒業生が出る、つまり、平成32年度から開始するとして、準備を平成29年頃から始めると考えると、これは**基本的に次期校長の課題**に他なりません。

以上は、**附設の将来の形についての茫漠たる話**であり、こういう場で時間をとるのも憚られるようなことではありますが、わたくしとしては、こういうことも念頭に置いているということは皆さまにご承知置きいただきたいと思っています。

実は、以上は、附設の将来の、いわば、**外形的な部分**に関することですが、もっと深刻な**内容的な面での課題**があります。

それは、**附設の高い医学部進学率をどう考えるか**ということです。これについては、わたくし自身は「**高すぎる**」と考えていますが、では、**適正な水準は**と言われると、答えはありません。

要するに、「**高い医学部進学率**」というのは**附設の現実**であって、今のところ、それでは、**この現実とどう向き合うか**という課題があると言えないわけです。

ただ、わたくしとしては、生徒が**本気で医者になりたいのなら**、自分の**受験学力にあった医学部医学科に**、**浪人せずに進学し**、**一日でも早く医者としての訓練を受けるべきだ**と思っています。

一方、これだけ多数の卒業生が、しかも、多様な医学部医学科に学んでいるし、さらに、実に、さまざまな医療分野、さまざまな臨床分野、基礎研究、さらに、創薬、医療機器開発などで活躍しているという、**この現実をもっと積極的に活かさないか**、という感もあります。

附設で同じ経験をした**医師たちの横断的な組織が日本の医療を変えてしまう**ということはあるのではないか、とも思います。

日本の医師は**30万人**、附設卒業の医師が**3000人**、何と日本の医師の**1%**が附設の出身です。これは**大変重い現実**です。では、**この重さをどう活かすか** — **これは附設の課題**でしょう。

この現実の延長上で、厚生労働大臣，次官，総括審議官，あるいは，医政局長など**国の医療行政の責任者に附設出身者がいてもいい**，とも思います。

まあ、これは**医療職を目指す生徒がこれだけ多いのだから、そういう道があってもいい**、という、**校長の文字通りの妄想**ではあります。

本当は、**もっと多様な分野に生徒や、そして、おそらく保護者が、関心を持つ**ように、いろいろな機会を利用したいと思っています。

進路講座はこの意味で大変重要なことで、今回から同窓会の全面的なご支援をいただけるようになりました。本当に遅ればせの御礼ですが、大変ありがとうございました。

例のとおり、散漫な挨拶になり、失礼いたしました。
繰り返しですが、本夕の盛会、心よりお慶び申し上げます。